滋賀県
【重点プロジェクト計画】

栽培技術の向上による収量安定と面積拡大による白ネギ産地の育成

活動期間：令和5年度～（継続中）

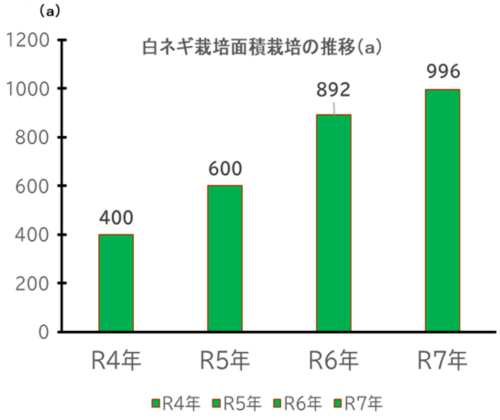
概要

- ○ JAレーク伊吹では、**加工業務用出荷**を見据え、令和5年度に**白ネギ**を**重点推進品目**とした。
- ○ 白ネギ生産者は、栽培研修会などの交流の機会が無く、**技術・収量の生産者間差が大**きく、出荷が12月に集中していた。
- ○ 生産者間の**栽培技術統一**や収穫期拡大のため、**栽培暦の改訂**や**新品種の導入**を進めるとともに**新たな生産者の発掘**を行った。
- ○ **栽培面積は約10haまで増え**、ブロッコリー、キャベツ、タマネギに次ぐ**4品目目の湖北地域の水田露地野菜**として定着した。

具体的な成果

1 白ネギの収量、栽培面積等の増加（R4→）

- ■ **作付面積　400a → 996a**（R7）
- ■ **収　量　1,800kg/10a → 1,300kg/10a**（R6）
  （豪雨、猛暑等の気象災害、病害虫の多発により収量は減少したが、生産者の技術向上により生産者間差が小さくなった）



2 栽培暦の改訂

- ■ 現地実証結果に基づく、技術統一のため栽培暦を改訂
  - ① 品　種（R5）　**1品種 → 4品種（収穫期 12月→11～2月）**
  - ②施肥設計（R6）**速効性肥料 → プラスチック樹脂被膜殻を使わない緩効性肥料の検討**

3 白ネギが新たな水田露地野菜として位置づけられた

- ■ JAレーク伊吹の**第8次地域農業振興計画**で重点推進品目に設定（R5）。
- ■ 現在、推進している湖北地域の水田露地野菜（ブロッコリー、キャベツ、タマネギ）に加え新たな品目として定着した。

普及指導員の活動

令和5年度	■ 関係機関との連携会議による**推進方策**や**生産・販売支援体制**の検討。 ■ **生産者毎**の課題把握のための**聞取り実施**と**栽培改善の提案**。 ■ 新規生産者の確保に向け、研修会や個別訪問、広報誌による**経営試算**の提示。
令和5年～6年度	■ 実証ほ設置（栽培暦の改訂） R5 収穫期拡大に向けた**品種選定**。 R6 収量向上・省力化に向けた**プラスチック樹脂被膜殻を使わない緩効性肥料**。 ■ **月1回**のJAとの**ほ場巡回**による栽培技術支援。**SNS**を活用した情報発信。 ■ **福井県への先進地視察**による技術習得と**生産者間の交流**。

普及指導員だからできたこと

- **生産者と直接対面し**、栽培の**課題を聞き取り、ほ場巡回、研修会**で対策を**提案し、生産者が実践**された。
- **JA担当者と協同**して、小規模、大規模の個々の**生産者をつなげ、県外普及組織とのネットワークを活かし**、先進地視察を企画、先進技術の**普及交換の場を作り**、産地育成に貢献できた。

滋賀県

栽培技術の向上による収量安定と面積拡大による
白ネギ産地の育成

活動期間：令和５年度～継続中

１．取組の背景

湖北地域では、ブロッコリー、キャベツ、タマネギを水田露地野菜の重点品目として推進し、112ha まで拡大している（図１）。ＪＡレーク伊吹では新たに収益が期待でき、軽労化が図れる品目を模索しており、関係機関との協議の結果、ＪＡの第８次地域農業振興計画において「白ネギ」を重点推進品目に設定した。

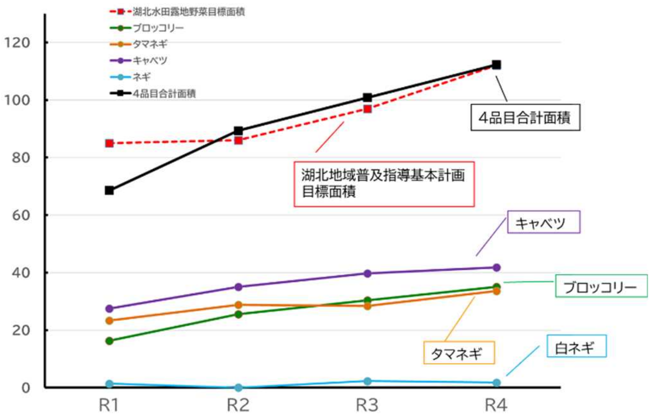


図１．水田野菜栽培面積の推移

当初、白ネギは青果市場出荷用として 4ha（R4）が栽培されていたが、加工業務用としての出荷も見据え、ＪＡの重点推進品目にしたことから、生産者の栽培技術の向上と生産面積の拡大に取り組んだ。

問題としては、栽培研修会などの生産者間の交流の機会が無いこと、生産者毎の収量格差が大きいこと、出荷が 12 月に集中していること等があった。

２．活動内容

普及指導センターは、ＪＡ、市、市場による連携会議を開催し、協議を重ねる中で「白ネギ」をＪＡの重点推進品目に位置づけるとともに、推進方策や生産・販売支援体制の検討を行った。

収量向上に向け、月１回、ＪＡ担当者とほ場巡回を行い（写真）、生育状況や病害虫の発生状況を確認し、栽培管理の要点をまとめ、共通認識のうえで集合研修会を開催した。特に、排水対策の徹底と多発している重要病害虫の防除においては、ＪＡのＳＮＳ「にまる」を通じてタイムリーな情報発信を行った。

写真　ＪＡとのほ場現地巡回

また、生産者毎に課題を聞取り、それぞれ生産者毎に栽培改善提案を行った。
栽培暦が現地の実情に合っていなかったことから、令和５年度に栽培暦の改訂を行い、その後２度に渡る見直しを経て令和７年２月に現暦が完成した。
収穫時期の作期分散を図るため、令和５年度に品種選定の実証ほを設置し、結果を栽培暦へ反映させた。令和６年度には施肥の省力化と併せプラスチック樹脂の被覆殻が残らない緩効性肥料（以下、「プラレス肥料」という）を用いた実証ほを設置し、栽培暦の施肥設計に登載を検討している。
新規生産者の確保に向けて、当センター広報誌「湖北農業かわらばん」令和５年冬号に白ネギの栽培概要や経営試算を載せるとともに、ＪＡと連携して研修会や個別訪問において土地利用型農家へ経営試算を提示し、新規の生産者を募った。
また、令和６年 10 月に福井県内で白ネギの専業栽培（10ha）を行っている（株）Ｋ農園へ先進地研修を実施し、品種選定の考え方や栽培技術を学ぶとともに生産者間の交流の機会を設けることで栽培意欲を高めた。

３．具体的な成果（詳細）

現地巡回や集合研修会により栽培技術は向上したが、夏季の異常高温による著しい生育抑制、白絹病や葉枯病、難防除のネギハモグリバエＢ系統が多発し、目標収量には届かなかった。一方で、高温対策と病害虫防除の理解を深めることにつながった。
実証ほの結果から、従来の１品種から４品種に増やし、出荷時期を 11～２月まで作期分散ができた。また、プラレス肥料は、約４ t /10a の収量が得られたため、令和８年産の栽培暦の施肥設計に反映することとなっている。
栽培面積は、大規模に栽培する生産者が１名現れ、さらに大規模水稲経営法人が栽培面積を拡大され、令和７年度は約 10ha に達した（図２）。

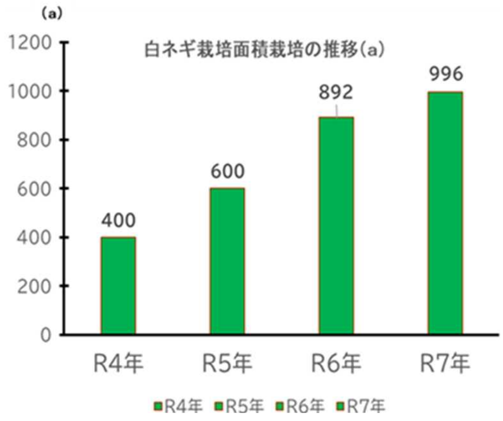


図２　白ネギ栽培面積の推移

４．農家等からの評価・コメント

排水対策の不備を指摘してもらえたことで、6月の湿害を軽減できました。生育不良のほ場に何回も来てもらい、原因と対策を一緒に考えることができました。一方で、夏の高温と病害虫の多発、除草剤効果の低下による雑草害で収量は前年の4割減となり年々栽培が難しくなってきたと感じていますので、その対策を提案して頂きたい（米原市・有限会社Ｓ　Ｙ氏）。

５．普及指導員のコメント

白ネギは青果市場出荷と加工業務用出荷をあわせた需要が高く、他の露地

野菜と比べて労働時間はかかるが、出荷まで自己完結でき、販売単価も高く、収量を確保することで 90 万円/10a 以上の高い粗収益が得られる。

小規模生産者でも販売額が大きく、また大規模栽培を行う生産者では機械化栽培体系の導入による省力化と作期分散により面積拡大ができ、水稲・麦・大豆に加えた経営の柱である品目となることから、管内大規模法人にも栽培推進を行っていく。

（湖北農業農村振興事務所農産普及課・副主幹・改田茂典）

６．現状・今後の展開等

白ネギは他県においても水田野菜の推進品目として作付け推進が行われており、今後産地間競争が高まってくることから、白ネギ産地の強化に向け、収量安定、青果市場や加工業用実需者が求める規格・品質確保を確実に行っていく必要がある。そのためには、排水対策の徹底や重要病害虫の適期防除、夏季の異常高温に対応した技術改善を行う必要がある。また、複年ローテーションによる新たな作付体系の確立（緑肥の導入、春・夏収穫の作型の拡大導入）が求められている。

プラレス肥料導入等の省力化に加え、除草、中耕・培土作業の多い品目であることから、県域で整備されているＲＴＫ基地局を用いた自動操舵ハンドルを用いるスマート農業の導入によりさらなる省力化・軽労化を進める必要がある。